

平成19年11月1日

平成20年3月期中間決算の概要について

シロキ工業株式会社
(輸送用機器 東証、名証第1部上場)
(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成20年3月期中間連結決算の概要

9月30日現在の当社の連結対象子会社数は国内5社、海外6社の計11社で、持分法適用関連会社が国内2社であります。前期末(平成19年3月31日)比では、持分法適用関連会社1社が減少いたしました。これは総合システムメーカーのコンピュータ・ハイテック株式会社(本社・東京)の全所有株式(37.8%)を本年6月29日に譲渡したためであります。

売 上

[6期連続で過去最高を更新、全地域で売上増。日本・米国は堅調に推移し、アジアは倍増]

当上半期の連結売上高につきましては、日本、米国では堅調を維持するとともに、アジアは前年同期比で倍増の売上を記録するなど、日本・米国・アジアの全地域におきまして順調に売上が伸び、前年同期比で8.0%増の688億2千5百万円で51億8百万円の増収となり、6期連続で過去最高を更新いたしました。

また、5月14日に公表いたしました期初予想660億円に対しても、4.3%増の28億2千5百万円の増収となりました。

これは、日本車人気に伴う旺盛な海外需要と海外生産拡大を背景に、得意先自動車メーカーの輸出好調に伴う底堅い国内生産の他、グローバルでの拡販活動および新製品開発などの効果によるもので、日本が前期比3.6%増の493億7千8百万円で17億円の増収、米国は前年同期比8.8%増の150億9千万円で12億1千6百万円の増収と堅調に推移し、アジアは前年同期比2.01倍の43億5千7百万円で21億9千3百万円の増収と好調に売上を伸ばすことができました。

このように日本・米国・アジアの全地域で売上を伸ばすことができましたのは、当社が取り組んでまいりました世界4極市場対応を視野に入れた生産・供給体制構築による

連結中間決算概要

(上段当中間期、下段前年同期)

売上高:

688億2千5百万円

637億1千7百万円

(前年同期比8.0%増)

営業利益:

17億2千9百万円

11億4千9百万円

(前年同期比50.5%増)

経常利益:

15億7千7百万円

11億9千6百万円

(前年同期比31.9%増)

中間純利益:

12億1千4百万円

7億5千4百万円

(前年同期比61.0%増)

1株当たり当期純利益:

13円69銭

8円50銭

海外売上高比率:

28.7%

25.9%

設備投資:

21億3千8百万円

17億4千3百万円

(前年同期比22.7%増)

減価償却費:

29億4千万円

26億4千9百万円

(前年同期比11.0%増)

積極的な受注活動や、高付加価値と競争力強化をはかった新製品開発活動の成果が順調に現れたものといえます。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けが堅調に推移し、前年同期比3.3%増の461億7千5百万円で、14億6千2百万円増加いたしました。製品別では、新機能や新機構を採用した新型ウインドレギュレータやシート部品などの新製品効果によって、ウインドレギュレータが前年同期比11.1%増、シートリクライナ・シートアジャスタも前年同期比5.3%増と好調に増加いたしました。

国内売上

国内につきましては、新潟県中越沖地震による減産の影響が一部にありましたものの、シロキ工業が前年同期比で3.3%増の493億8千5百万円で15億7千1百万円の増収となり、2期連続で過去最高の売上高となりました。

また、5月14日に公表いたしました個別の期初予想481億円に対しても、2.7%増の12億8千5百万円の増収となりました。

これは、得意先自動車メーカーの輸出好調に伴う底堅い国内生産と、モーターとECU（電子制御装置）を一体化した新型ウインドレギュレータなどの新製品の受注増加や、新型車の新規受注に伴う生産増加などによるものであります。

海外売上

米国につきましては、シロキノースアメリカ（テネシー州）が、前年同期比で8.8%増の150億9千万円で、12億1千6百万円の増収となりました。これは、現地日産自動車（株）の量販車種「アルティマ」向けドアサッシの生産開始による生産増などが大きく寄与したものであります。

アジアにつきましては、中国では広州白木自動車部品（広州市）が、前年同期比3.61倍の23億6百万円で16億6千7百万円の増収となりました。これは現地トヨタ自動車の主力車種「カムリ」向けドアサッシやモールディング、ウインドレギュレータなどの生産増が大きく寄与したものであります。

地域別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

・日本

493億7千8百万円

476億7千8百万円

（前年同期比3.6%増）

・米国

150億9千万円

138億7千4百万円

（前年同期比8.8%増）

・アジア

43億5千7百万円

21億6千4百万円

（前年同期比2.01倍）

・合計

688億2千5百万円

637億1千7百万円

（前年同期比8.0%増）

得意先別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

・トヨタG

（67.1%）

461億7千5百万円

447億1千2百万円

（前年同期比3.3%増）

・売上高上位3社

トヨタ自動車

（38.0%）

261億6千3百万円

251億4千万円

（前年同期比4.1%増）

トヨタ紡織

（19.9%）

137億7百万円

120億9千2百万円

（前年同期比13.4%増）

スズキ

（7.3%）

50億2千9百万円

48億6千5百万円

（前年同期比3.4%増）

*社名横の（）内は売上構成比率

主要製品別売上高

（上段当中間期、下段前年同期）

シートリクライナ・

シートアジャスタ

（37.6%）

258億2千9百万円

245億1千8百万円

（前年同期比5.3%増）

ウインドレギュレータ

（29.9%）

205億9千3百万円

185億2千9百万円

（前年同期比11.1%増）

ドアサッシ

（17.1%）

117億7千8百万円

108億6千7百万円

（前年同期比8.4%増）

*製品名横の（）内は

売上構成比率

タイではシロキタイランド(チョンブリ県)が、前年同期比35.2%増の20億7千6百万円で5億4千1百万円の増収となりました。これは、現地トヨタ自動車の国際戦略車「IMV」および「カムリ」向けの生産拡大が寄与したものであります。

利益

【海外での利益増が貢献、連単倍率は2.9倍に】

利益につきましては、日本・米国・アジアの全地域での売上増加による増収効果と徹底した合理化活動による収益改善などにより、税制改正による減価償却負担増などを吸収し、営業利益は前年同期比50.5%増の17億2千9百万円で5億8千万円の増益となりました。このうち、特に海外での利益増加が大きく貢献し、営業利益の連単倍率は前年同期比の1.6倍に対し、2.9倍となりました。経常利益は前年同期比31.9%増の15億7千7百万円で3億8千1百万円の増益、中間(当期)純利益は前年同期比61.0%増の12億1千4百万円で4億6千万円の増益となりました。

また、5月14日に公表いたしました営業利益12億円の期初予想に対し、44.1%増の5億2千9百万円の増益、経常利益9億円の期初予想に対しては75.2%増の6億7千7百万円の増益、また中間純利益4億円の期初予想に対して、3.04倍の8億1千4百万円の増益となりました。

中間配当見送りから2円に。年間4円に修正

当期の中間配当につきましては、期初におきまして見送らせていただくことといたしておりましたが、当上半期の業績および通期業績予想を総合的に勘案した結果、1株につき2円とさせていただきます。期末配当金と合わせて年間配当金は期初の1株につき3円から1円増配し、1株につき4円とさせていただきます予定であります。

主要会社別売上高

(上段当中間期、下段前年同期)

シロキ工業

493億8千5百万円

478億1千4百万円

(前年同期比3.3%増)

シロキノースアメリカ

150億9千万円

138億7千7百万円

(前年同期比8.7%増)

広州白木汽車零部件

23億6百万円

6億3千9百万円

(前年同期比3.61倍)

シロキタイランド

20億7千6百万円

15億3千5百万円

(前年同期比35.2%増)

セグメント別営業利益

(上段当中間期、下段前年同期)

・日本

6億3千3百万円

8億6千5百万円

(前年同期比26.8%減)

・米国

2億9千8百万円

3千8百万円

(前年同期比7.84倍)

・アジア

5億8千6百万円

5千1百万円

(前年同期11.49倍)

・消去又は全社

2億1千万円

1億9千3百万円

・合計

17億2千9百万円

11億4千9百万円

(前年同期比50.5%増)

2、上期の主な取り組み実績

当社グループは、高機能・高品質・低コストに加え、海外対応のできる「世界No.1の魅力ある製品づくり」に取り組み、世界4極市場に対応したグローバル生産・供給体制の確立を加速いたしました。また、中長期的に予想される国内生産の減少に備え、生産現場では「モノづくり」改革による生産ラインの工程2分の1化に取り組むとともに、中京地区における生産体制の再編に着手するなど、生産の高効率化をはかったシャープでスリムな生産体制構築にも積極的に取り組んでまいりました。

上期に実施した主な取り組みは次の通りであります。

グローバル展開の加速

米 国

- ・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応
 - シロキGA（ジョージア州）の拡張工場が新規受注のドアサッシの生産準備開始
 - シロキGT（テネシー州）がウインドレギュレータの本格生産開始
- ・北米3工場の立地を活かした受注活動の展開と徹底した原価低減活動により、企業体質と事業基盤強化

中 国

- ・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応
- ・華南地区を基盤とした生産体制と事業基盤強化
 - 広州白木汽车零部件第2工場稼動開始（本年7月）

タ イ

- ・生産基盤の整備・拡大によりASEAN地区での生産強化
 - 受注拡大に向けた大型プレス機導入

イ ン ド

- ・現地提携先との関係強化
 - テクニコ インダストリーズ（ハリアナ州）に資本出資（本年9月）

国内事業強化

- ・九州地区の得意先生産拡大に対応
 - 九州シロキ第2工場本格稼動開始（本年5月）

個別中間決算概要

（上段当中間期、下段前年同期）

売上高：

493億8千5百万円

478億1千4百万円

（前年同期比3.3%増）

営業利益：

6億3百万円

7億4千万円

（前年同期比18.4%減）

経常利益：

8億8千1百万円

11億1千7百万円

（前年同期比21.1%減）

中間純利益：

6億9千6百万円

6億3千6百万円

（前年同期比9.5%増）

設備投資：

16億7千5百万円

16億3百万円

（前年同期比4.5%増）

減価償却費：

22億3千2万円

21億7千6百万円

（前年同期比2.6%増）

3、平成20年3月期連結業績予想について

売 上

[6期連続過去最高の売上。]

引き続き海外需要は堅調に推移]

今期の連結の業績予想につきましては、アメリカ経済の減速懸念や原油価格の動向など先行きの不安要因がありますものの、下期も日本車人気を背景とした海外需要は引き続き堅調に推移するものと予想されます。このことから、国内外の生産は引き続き堅調に推移し、通期売上高は前期比4.1%増の1,390億円で54億9千1百万円の増収で、6期連続での過去最高の売上高更新を予想しております。

また、5月14日に公表いたしました連結業績予想の通期売上高1,370億円に対して1.5%増の上方修正をするものであります。

国内売上

引き続き得意先自動車メーカーの堅調な輸出に伴い国内生産は底堅く推移し、また新型車の新規受注などによる生産増などが見込まれます。このことから、主力のシロキ工業の通期売上高が、前期比2.1%増の1,030億円で20億7千2百万円の増収を予想し、2年連続で1000億円の大台を確保いたします。

また、5月14日公表の個別業績予想の通期売上高1001億円に対して2.9%増の上方修正するものであります。

海外売上

米国では、シロキノースアメリカの通期売上高を前期比4.0%増の281億円で10億8千万円の増収と見込んでおります。

アジアでは、中国の広州白木自動車零部件が現地得意先自動車メーカーの生産増に伴い、通期売上高を前期比85.0%増の43億円で19億7千6百万円の増収と、引き続き好調に推移するものと見込んでおります。一方、タイのシロキタイランドの通期売上高は前期比9.8%増の36億円で3億2千1百万円の増収と、引き続き堅調に推移するものと見込んでおります。

平成20年3月期連結予想

(上段予想、下段前期実績)

売上高:

1,390億円

1,335億9百万円

(前期比4.1%増)

営業利益:

38億円

31億8千2百万円

(前期比19.4%増)

経常利益:

35億円

31億8千9百万円

(前期比9.8%増)

当期純利益:

23億円

16億1千2百万円

(前期比42.7%増)

1株当たり当期純利益:

25円92銭

18円17銭

海外売上高比率:

27.9%

24.9%

設備投資:

70億5千2百万円

73億7千1百万円

(前期比4.3%減)

減価償却費:

60億9千1百万円

55億4千9百万円

(前期比9.8%増)

会社別売上高予想

(上段予想、下段前期実績)

シロキ工業

1,030億円

1,009億2千8百万円

(前期比2.1%増)

シロキノースアメリカ

281億円

270億2千万円

(前期比4.0%増)

広州白木自動車零部件

43億円

23億2千4百万円

(前期比85.0%増)

シロキタイランド

36億円

32億7千9百万円

(前期比9.8%増)

利 益

【 0 5 年度底に 2 期連続で増益。増益基盤が定着化 】

利益につきましては、国内の増収効果と海外子会社での収益改善により、税制改正による減価償却負担増などを吸収し、通期営業利益は前期比 19.4% 増の 38 億円で 6 億 1 千 8 百万円の増益を予想しております。また、通期経常利益は前期比 9.8% 増の 35 億円で 3 億 1 千 1 百万円の増益、当期純利益は 42.7% 増の 23 億円で 6 億 8 千 8 百万円の増益を予想しております。

また、5 月 14 日に公表いたしました通期連結業績予想の営業利益 27 億円に対して 40.7% の増、経常利益 23 億円に対し 52.2% の増、当期純利益 14 億円に対し 64.3% の増、それぞれ上方修正するものであります。

当社グループは、更なる成長を目指し、製品開発におきましては、電子技術部門の拡充などにより、電子部品に対応した高付加価値部品やシステム部品などの新製品開発を強化してまいります。また国内事業におきましては、モノ造り改革を加速するとともに、中京地区における生産体制の再編を進めてまいります。一方海外事業におきましては、人材や部品調達などの現地化を進め、グローバル体制の更なる充実をはかってまいります。当社グループといたしましては、グローバルサプライヤーとして総力をあげて世界競争に勝ち抜いてまいり所存でございます。

以 上

個別通期予想

(上段当期予想、下段前期実績)

売上高：

1,030 億円

1,009 億 2 千 8 百万円

(前期比 2.1% 増)

営業利益：

15 億円

21 億 3 千 7 百万円

(前期比 29.8% 減)

経常利益：

21 億円

27 億 9 千万円

(前期比 24.7% 減)

当期純利益：

15 億円

10 億 3 千 1 百万円

(前期比 45.5% 増)

設備投資：

44 億 9 千 3 百万円

43 億 2 千 2 百万円

(前期比 4.0% 増)

減価償却費：

43 億 5 千 9 百万円

47 億 4 千 5 百万円

(前期比 8.1% 減)

この件のお問い合わせは：

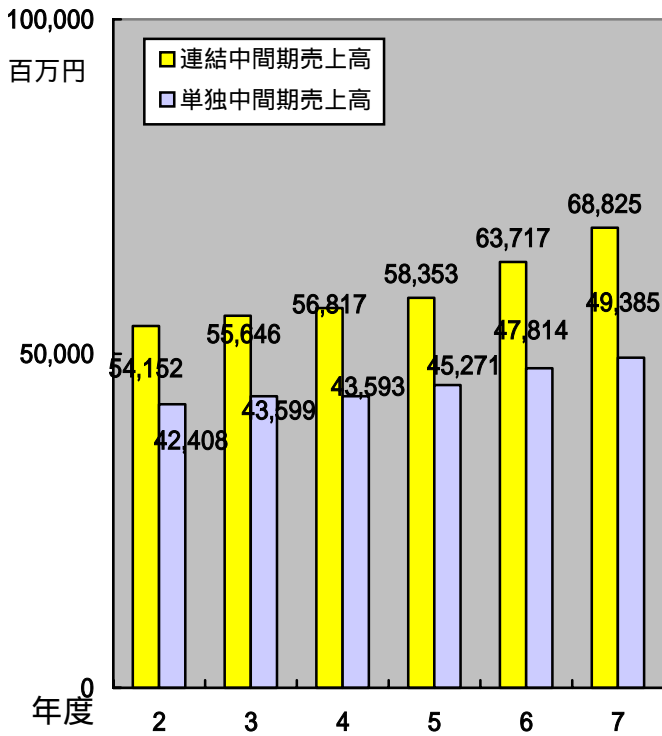
シロキ工業株式会社 (0533) 84 - 4691

取締役経理部長 大石
総務部広報担当 眞野 まで

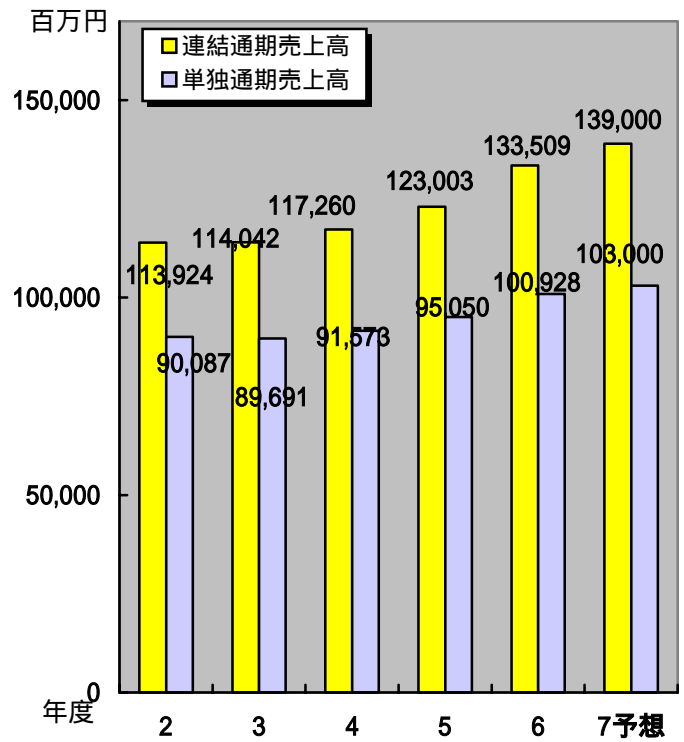
業績推移

シロキ工業株式会社

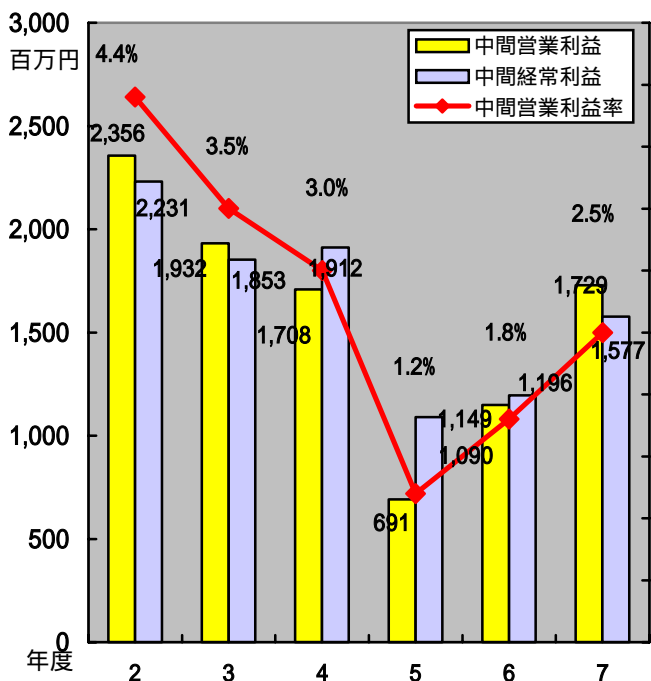
連・単売上高推移（中間期）



連・単売上高推移（通期）



連結利益の推移（中間期）



連結利益の推移（通期）

